

複雑なインプラント症例の外科—補綴の連携治療 Interdisciplinary management of Complex Implant Treatment



Masao Yamazaki

山崎 長郎

原宿デンタルオフィス

上顎無歯顎におけるインプラント治療は、外科—補綴の連携治療が必須である。

CT-X 線、CAD/CAM を活用するデジタルデンティストリーは、今後インプラント治療には欠かせないものとなるが、ここでは複雑な症例を通じて、デジタルデンティストリーが外科—補綴の連携治療において、診査—診断—治療計画をどのように変えつつあるかを示したい。私たちが、どのように考え、立案し、遂行したかを、以下の点を中心に解説したい。

- ①外科医、補綴医、歯科技工士の各段階における緊密な連携
- ②軟組織、骨の改善後、各種の補綴設計の検討
- ③使用するマテリアルの選考基準と各々の問題点
- ④メンテナンスの重要性

Clinical Principle

治療計画と目標の共有が連携治療の鍵であるが、デジタルデンティストリーによって設計から実際の修復に至る精度が格段に高まった今、順序立てられた包括的計画の重要性が一段と重みを増した。又、インプラント補綴の永続性を高めるためのメンテナンスはより重要性が増している。

Key words

- ・ immediate loading
- ・ radiographic template
- ・ guided surgery
- ・ CAD/CAM
- ・ digital dentistry
- ・ maintenance

【略歴】

- 1970 年 東京歯科大学卒業
- 1974 年 原宿デンタルオフィス開院

【現在】

- 日本臨床歯科学会 理事長
- iACD 日本支部 会長
- 日本歯科審美学会
- 日本補綴歯科学会
- 日本デジタル歯科学会
- IADFE Asia Regent